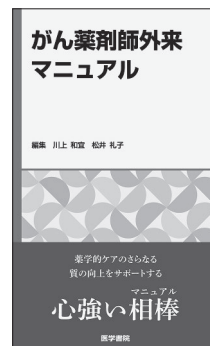




がん薬剤師外来マニュアル



評者 山口 正和 がん研有明病院院長補佐・薬剤部長

◆ 実際の外来業務で即戦力となるための情報が満載

「がん薬剤師外来マニュアル」は、がん薬物治療にかかわる多くの薬剤師にとってまさに必携の一冊です。2024(令和6)年の診療報酬改定で新設されたがん薬物療法体制充実加算が注目される中、本書は「がん薬剤師外来」において医師の診察前に行う薬剤師による面談のプロセスや治療ごとに使用されるレジメンと患者面談のポイントを詳細に解説しています。

本書の最大の特徴は、診療報酬として新設される以前からさまざまな試練を乗り越え実際にがん薬剤師外来の立ち上げを経験した最前線で活躍する薬剤師によって執筆されている点です。この実体験に基づく内容は、実際の現場で直面する課題を鮮明に描き出し、薬剤師がどのような対応をすれば患者に安心と信頼を提供できるかを具体的に示しています。患者への説明は丁寧でわかりやすく、また医師に対する支持療法薬の提案やその使い方の共有方法にも十分配慮されており、エビデンスに裏付けられた説得力ある内容です。

特に印象的なのは、患者とのコミュニケーションに重きを置いた構成です。薬剤師は単に薬を渡すだけでなく、患者の不安を解消し、治療方針に納得してもらうことで治療の効果を最大限に引き出す役割を果たします。本書では、具体的な患者との対話例や、患者の

理解を助けるための工夫についても詳述されており、実際の外来業務で即戦力となるための情報が満載です。

また、本書では支持療法薬の選択や提案プロセスにおいても、エビデンスを踏まえた提案方法が具体的に解説されており、そして「副作用の重篤度評価と薬学的ACTION」の項目では、薬剤師がどのように効果的に治療に参加するのか、具体的なアプローチが示されています。

さらに、がん薬剤師外来の立ち上げを志す人々に向けて、ステップバイステップで理解できるよう配慮されている点も見逃せません。本書を手にとることで、外来業務の基本から応用までをしっかりと学ぶことができ、実際の業務においてどのように実践していくかの具体的なビジョンを得られるでしょう。

まとめると、『がん薬剤師外来マニュアル』は、がん薬物療法に携わる薬剤師にとって欠かせない指南書であり、ここには患者や医師とのコミュニケーションを向上させるための実践的な知識が詰まっています。これからがん薬剤師外来を始める方、また既に外来業務を行っている方のいずれにとっても、大変価値のある一冊といえるでしょう。

川上 和宜, 松井 礼子 編

B6変型/464頁/2025年/定価4,400円(本体4,000円+税10%) / ISBN978-4-260-05982-4 / 医学書院刊